



Weekly

尾張旭 ロータリークラブ

集まろう・語ろう
楽しもう

・会長 古橋 裕志 ・幹事 仲澤 昌容 ・クラブ会報 福岡 健
 ・例会日 毎週金曜日 12:30 ・例会場 〒488-0801 尾張旭市東大道町原田2570-3
 ・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
 E-mail: jimmu@owariasahi-rc.org URL: http://www.owariasahi-rc.org

本日 第2126回 2014年10月31日(金) No. 2012

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング「我等の生業」

卓話者:西尾 輝久君

演 題:「歯の生活習慣病対策について」

前 回 第2125回 2014年10月24日(金) 記 録

- 齊 唱: 「それでこそロータリー」
- 来訪者: なし
- 出席者: 会員25名中20名出席 出席率80.00%
前々回補正出席率 10月11日分92.00%

会長あいさつ 古橋 裕志



今の時代は我々の廻りに通信機器が非常に発達しており、特に携帯電話よりスマートフォンが主流になってスピードと情報、ゲーム等、的確に咽め、楽しませてくれます。

しかし、ここ最近、小中学校の生徒間、勉強よりスマホの時間等の諸問題、営業マンの商売のあり方、その他犯罪等、様々な問題が出てきています。

ある部品メーカーの会社はスマホを従来の携帯電話に変える事によってデジタル機器に触れない時間が増え、社員間の会話が増え、取引先との商売、会話も増え、新聞や読書をする時間、物事を考える時間も増え、社員の成長、実力がアップしたそうです。

なお、この会社はスマホ不使用手当として月々5,000円支給され、工作上必要な場合にスマホを支給しているそうです。また、ある資材メーカーは営業マンの机にパソコンをなくし、お客様と接し、会話、商売するのが本来の営業の仕事で、その結果、営業マンの外回りは1日1

～2時間増え、会社の収益は順調に伸び、お客様からの評判も上がったそうです。要は「原点に戻れ」人間、物が発達すれば楽になり、体を動かさない頭を使わない、想像力がつかない、意思疎通がなくなり、人間の本来の姿が失われていくような気もいたし、これをいかに状況に応じて文明機器をうまく利用していくことも必要だと思えます。

幹事報告

- ・10/24 第1回パスト会長会 於商工会館 古橋裕志会長以下8名出席
- ・10/24 指名委員会 於商工会館 古橋裕志会長以下6名出席
- ・10/29 市民ゴルフ実行委員会 於市民会館 菊田ゴルフ部幹事出席。
- ・例会変更のお知らせ: 掲示板をご覧ください。

ニコボックス

- 結婚記念日を祝っていただき。富田 晃君
- 本日は卓話をさせていただきます。
舟橋 龍秀君
- ようやくやわらかい秋の陽射しとなりました。
本日舟橋さんの卓話を楽しみにしています。
古橋 裕志君
- 舟橋龍秀君の卓話を楽しみにしています。
加藤 清久君、桜井 雅博君
高島 昇君、古橋エツ子君、箕輪 良孝君
- 11月8日土曜日、拙宅にて17時より紅葉

ロータリー財団月間

	11月 7日(金)	11月14日(金)	11月21日(金)	11月28日(金)
例 会 予 定	卓話担当者: 飯田 幸雄君 卓話者: 地区奨学基金・学友・平和フェローシップ 委員長 小島 哲夫君(豊田中RC) 演題: 「[改革] ～新しいロータリー財団」	ガバナー公式訪問 卓話者: RID2760地区 ガバナー 近藤 雄亮君 (名古屋瑞穂RC) 演題「公式訪問に因んで」	職場例会・見学 場所 富士特殊紙業(株) 瀬戸市暁町 卓話者: 杉山 仁朗君	卓話担当者: 加藤 清久君 卓話者: " 演題: 「体験的にみた日本の実力」

の会をいたします、都合の良い方、お待ちしております
 おります。 森井 晴生君
 ○箕輪さん、大変お世話になりました。ありが
 とうございました。奥様にもお世話になりまし
 ました。 江尻 豪君

指名委員会

日時 2014年10月24日(金)
 場所 商工会館 第一会議室
 出席者 箕輪良孝直前会長、古橋裕志会長、古
 橋エツ子会長エレクト(副会長)、仲澤昌容幹
 事、森井副幹事、飯田幸雄君、井田武憲君。

卓 話

「茶道の楽しみ」



舟橋 龍秀
 茶は8
 世紀に唐
 から日本
 に伝えら
 れましたが、その
 後、栄西
 が宋代の
 新しい茶
 の製造法
 や喫茶法

を伝え、14世紀に茶は武家社会や庶民に広がりました。その過程で、嗜好品として飲まれるようになりました。15世紀から16世紀にかけて、「不足の美」を求める「わび茶」が、村田珠光、武野紹鷗などにより次第に形作られ、千利休により茶道として完成されました。利休が秀吉の勘気に触れ、切腹を命ぜられた後は、利休の孫元伯宗旦の3人の息子により、表千家、裏千家、武者小路千家として引き継がれ、今日に至っています。

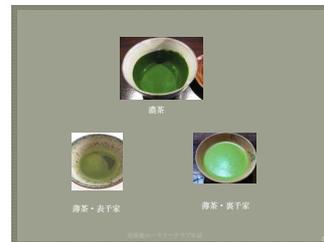
利休によって伝えられた茶道では、「型」が非常に重視されます。そして、その型を理屈ではなく、体で覚えることが修行であるとされています。わび茶の精神は、自然で飾り気がなく、簡素さの中に心がこもることで、深い精神的な境地や心と振る舞いが一体となった奥ゆかしさであり、それが客の心に響くものであると言われています。

お茶の点前には、濃茶と薄茶があります。濃茶は茶事の中で、すべてのしつらえは一服の濃茶を頂くためとされています。茶懐石を頂くのも、適度にお腹が満たされた状態でこそ濃茶がおいしく頂けるからです。薄茶は、もっと寛いだ雰囲気の中で頂くお茶です。

点前をする際、5月から10月までは風炉、11月から4月までは炉でお湯を沸かします。茶道具には、茶碗、茶入れ、茶器、水差し、茶杓、香合などいろいろなものがありますが、なかでも一番格が高いのが、濃茶の際にお茶を入れておく茶入れです。戦国時代には、有名な茶

道具(名物と言います)を手に入れるために一
 国と引き換えたということもありました。その
 中には今日国宝として伝承しているもの(例え
 ば、志野茶碗「卯の花垣」三井記念美術館蔵)
 もあります。

私がお茶を習い始めたきっかけは、近くのス
 ーパーマーケットの中の文化教室で「男性茶道
 教室」という講座があるのを見つけ、「お茶の
 飲み方をちょっとくらい覚えておくと何かの役
 に立つかもしれない」と思ったことでした。そ
 れから約15年経ちますが、まだまだ淀みのな
 い所作でお茶を点てることはできません。しか
 し、それでも続けていられるのは、お茶を点て
 ている時間は、日常性から離れ、形に身を委ね
 ることの快感のようなものがあるからです。言
 い換えれば、様式の美しさを体験する喜びと言
 ってもいいかもしれません。これで完成とい
 うことのない世界ですが、これからも続けてい
 こうと思っています。



△濃茶(上)
 薄茶(表千家)(裏千家)



△風炉(上右)
 炉



△黒楽茶碗 志野茶碗
 井戸茶碗(下)



△茶入れ・袱紗(左)
 茶入れ(中) 棗(右)



△伊賀・破れ袋(右)



△香合